

- ・ 論文タイトル

「支払手段の決定メカニズム——現金 vs. クレジット・カード——」

- ・ 章立て

第一章 はじめに

第二章 既存論文のレビュー

クレジットカードに関する消費者行動論の論文のレビュー

第三章 仮説の設定、モデルの構築

第四章 実証分析

共分散構造分析を用いる

第五章 分析結果の考察

第六章 おわりに

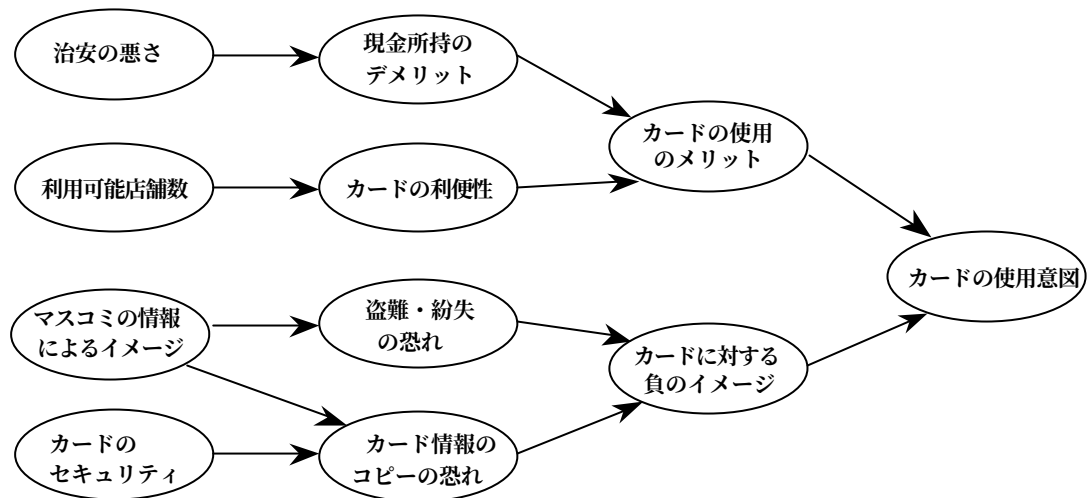
- ・ はじめに

「海外旅行でクレジットカードをととても便利と感じたが、日本ではあまり使用されていないのは何故だろうか」。就職活動中に耳にしたこの言葉が本論文の出発点である。現金での支払い、クレジットカードでの支払い、デビット・カードでの支払い、さらには商品券での支払いなど、支払手段は多種多様である。消費者があるブランドを購入するのに理由があるように、支払手段を選択するのに理由が存在するはずである。利用シーンが変われば、支払手段の選択もブランド選択同様に変わってくる。

我々消費者は、日常生活において、当たり前のようにモノを買い、当たり前のようにその対価を支払っている。

本論文の目的は、現金とクレジットカードに着目し、支払手段の決定メカニズムを解明することを追求することである。研究結果から、将来の自分の仕事へのインプリケーションが得られたのであれば、それをビジネスで実証できればとも考えている。

・ 仮説（仮）



・ 参考文献

- 宮崎隆(1990a),「経済学の方法と応用経済学——「クレジットの経済学」を題材として——」『商経論集』(早稲田大学), 第 58 号, 81-91 頁。
- (1990b),「クレジットの歴史と定義」『商経論集』(早稲田大学), 第 59 号, 107-118 頁。
- (1991a),「クレジット・カードの保有動機について——貨幣経済学的解釈——」『商経論集』(早稲田大学), 第 60 号, 97-104 頁。
- (1991b),「クレジット情報システムと多重債務者問題」『商経論集』(早稲田大学), 第 61 号, 63-85 頁。
- (1992a),「近年における流通クレジット・カード市場の動向について——コンテストابل・マーケットと情報戦略——」『商経論集』(早稲田大学), 第 62 号, 105-120 頁。
- (1992b),「産業組織としてのクレジット——企業形態の再検討——」『商経論集』(早稲田大学), 第 63 号, 13-22 頁。
- (1993a),「流通系クレジット戦略の現状と将来——代表的クレジット会社の業態の変容を参考にして——」『商経論集』(早稲田大学), 第 64 号, 111-127 頁。

＊ 今後の参考文献探しについて

1. 最近執筆された論文で、かつ、マーケティングの観点から支払手段を論じた論文を探す。
2. 支払手段から離れた論文を探す。例えば、情報処理理論の論文。